

植栽基盤診断士

～植栽基盤のスペシャリストとして、技術提案を～

植栽樹木の枯損や生育不良の原因で最も多いと推測されるものが、固い地盤や排水不良などによるものです。

一般社団法人日本造園建設業協会（日造協）では、植栽基盤に関わる総合的な知識と卓越した技術提案力を持つスペシャリストとして「植栽基盤診断士」認定制度を平成15年に創設し、以来20年が経過しました。令和4年度末までに全国で1,730名、うち千葉県では72名の植栽基盤診断士（土補は全国で2,125名、うち千葉県で83名）が県内各地域で活躍しており、現在では国土交通省や都市再生機構等で仕様書等に記載されてきています。

そこで、日造協千葉県支部では、植栽基盤診断に必要な5項目（物理性4項目、化学性1項目）について千葉県版の標準見積書を作成し、千葉県下の行政への要望活動のひとつとして準備しました。

物理性4項目については、

▽土壌断面（長谷川式大型検土杖の取り扱い、測定手順、記録）

▽土性・土色判定（指頭法・標準土色帖の土色判定と判定結果の記述）

▽土壌硬度（長谷川式土壌貫入計の取り扱い、測定手順、測定結果のグラフ化と評価）▽透水性（長谷川式簡易現場透水試験器の取り扱い、測定手順、最終減水能の算出と評価）を標準とし、

化学性1項目については、

▽PH・EC測定（測定準備、測定液の取り扱い、測定器の校正作業、測定の手順と読み取り、判定）を標準としています。

また、これら5項目の判定結果をもとに、技術提案をする流れになっています。



土壌断面

植栽地の改良提案をするためには、現場調査・土壌の物理性・化学性の診断・排水性の確保・植物の性質や植栽工法・経済性の比較など、施工者側の植栽基盤に関する高度な知識と技術が要求されるため、質の高い技術者を育てていくことが必要です。

「植栽基盤診断士」は、植栽基盤・土壌・植物・植栽に関する知識と経験があり、土壌調査・診断結果をもとにした処方能力を総合的に備え、植栽基盤整備“植物が良好に育つ土壌環境”を整えるスペシャリストです。

「植栽基盤診断士」に求められる能力として、下記の事項があげられます。

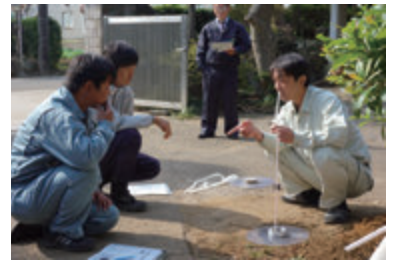
- ① 植栽予定地の現況調査・診断・植栽基盤整備に必要な土壌の物理性、化学性の知識
- ② 植栽されるさまざまな植物の総合的な知識
- ③ 植栽や移植に関する多様な工法、経済性の知識と技術
- ④ 植栽地盤の調査・診断技術と、植栽基盤整備の視点に立って下す処方能力
- ⑤ 発注者などに対し、施工性、経済性を考慮して、明確なデータを示しながら行う技術提案力と説明力
(日造協千葉県支部副支部長 松戸克浩)



土性・土色判定



土壌硬度



透水性



PH・EC測定